

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立友和小学校	校長	空田 由美	生徒指導主事	竹本 幸子
取組事例名	『自主的に取り組む委員会活動～運営委員会～』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
自主的に委員会活動に取り組むことを通して、自ら考えて学校をよりよくしようという心情を高める。	自ら考え行動する児童 挑戦する児童



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
○あいさつカードを使った「あいさつラリー」を行う。 ・月目標に対する具体的な取組を各クラスで考える。 ・あいさつを進んでできるようにするために、あいさつラリーに取り組むことを代表委員会で伝える。 ・あいさつ週間中、大休憩や昼休憩に、運営委員会とあいさつをした児童にはあいさつカードにスタンプを押す。 ・あいさつカードのスタンプの数に応じて、ミニ賞状を渡す。 ○ドッジボール大会を行う。 ・ドッジボール大会を通して、クラスのチームワークやみんなで盛り上がる機会をつくることを伝える。 ・低学年と高学年の部に分かれ、ドッジボール大会を行う。 ○12月の月目標に関連して「いじめをなくすために」一人一人が考えた標語を掲示する。 ・月目標に対する具体的な取組を各クラスで考える。 ・いじめをなくすためにどんなことができるのか、一人一人が考えて標語で思いを表す。 ・全校児童の標語を集め、掲示板等に掲示する。 ・各クラスから数点選び、児童玄関に通年掲示し、常に「いじめは許さない」という意識がもてるようにする。	児童にめあてをもたせるために ・委員会活動では、どのような取組にすれば、児童が楽しんだり、意欲的に取り組んだりできるかを常に意識して取り組んだ。 児童の意欲を高めるために ・企画、運営を児童に行わせ、自分たちを含む全児童が楽しんで活動できるよう助言した。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ・月目標と関連付けて、各クラスでふり返りをすると共に、委員会活動でもふり返りを行い、次の活動に生かした。



3 成果と課題
○あいさつラリーの取組について、低学年の児童は、特に喜んで取り組んでいた。月目標のふり返りでもあいさつをする人が増えたという内容が多かった。(アンケートでは、80%が肯定的回答をしていた。) ドッジボール大会は、休憩時間もクラスで練習するなど、1ヶ月間盛り上がることができた。 ●運営委員会から、企画を提案することが多かった。全児童からの意見をとり上げるような働きかけをすることで運営委員会の児童だけでなく全児童がさらに主体的に参加できるのではないかなと思う。